

第 5 回森づくりボランティア活動実施の結果について

- 1 開催日時 平成 29 年 9 月 19 日 (火) 10 : 00 ~ 12 : 00
- 2 開催場所 試験施工区 A 区と周辺
- 3 参加者数
 - ・ 樹木医会 2 名
 - ・ (株) ノーリツ OB 会 3 名
 - ・ 明石公園野鳥の会 1 名
 - ・ 一般 3 名
 - ・ 明石公園 2 名
- 4 主 催 (公財) 兵庫県園芸・公園協会
- 5 内 容
 - (1) 試験施工地区 A 区の草刈り
 - (2) " 西側の山桜周辺の整備
 - (3) 今後の予定
 - ・ 次回 10 月 4 日 (水)
 - ・ 次回より毎月第 1 水曜日を活動日とする (1 月・8 月は休み)
 - ・ 11 月はシイタケのほだ木づくりをする

6 開催状況



明石

■明石総局

〒673-0882
明石市相生町 2-10-24
TEL...078-912-4343
FAX...078-913-2833
e-mail
akashi@kobe-np.co.jp

■本社報道部

〒650-8571
神戸市中央区東川崎町 1-5-7
TEL...078-362-7040
FAX...078-360-5501
e-mail
houdou@kobe-np.co.jp

火事や事故の速報、写真、映像提供、身近な話題、生活情報を上記へご連絡ください

放置され高木化した常緑樹を伐採して森に明るさを取り戻し、植物や生きものが生育しやすい豊かな森にする活動が、明石市の明石公園で始まっている。4月から毎月1回、樹木医らのグループ約10人がモチノキなどを切り倒したり、下草を刈ったりして明るく人が入りやすい森にする作業に励んでいる。

(吉本晃司)



常緑の高木伐採 豊かな森復活へ

明石公園や六甲山系の森はかつて、燃料に使うまきを切り出すため常に人が出入りし、適度に手入れされていた。しかし20世紀後半にエネルギーの供給が石油やガスに変わるとまきの需要がなくなり、森に入ってモチノキやカクレミノ、カシノキなどを伐採する人が激減。これらの木が放置されて高く育ち、常緑の葉が高い場所まで太陽の光を遮ることになり、地表の植物も生育しにくくなった。

常緑の高木を伐採すると鳥も森に入りやすくなり、太陽光で地面が温められると虫が生育しやすくなるなど、生きものの種類も増える。樹木医の久保田和男さん(67)〓西宮市〓は「1日当たりがよくなるとヤマザクラの幹から枝が芽吹き、森の中でサクラも楽しめる。ミツバやセリも生えてくるようになり、野草の摘み取りもできる」と話す。

■明石公園で樹木医ら■

ボランティア参加呼び掛け

県などは2011年から、同公園の一角の高木を伐採し、明るくなった地表にどんな植物が生えてきたかを検証する実験をしてきた。今年からはボランティアも参加し、周辺に活動を広げていくという。

久保田さんは「森の手入れは終わることなく続けていく必要がある。木の種類が変わると、四季の移り変わりを感ぜられるようになる」と話し、「すばらしい森を後世に残すため、多くの人に参加してもらえたら」とボランティアの参加を呼び掛けている。

今回の活動は5日。雨天で中止の場合の予備日は25日。8月は活動を休む。県園芸・公園協会 ☎078・912・7600

常緑の高木のモチノキを切り倒すボランティアア〓明石公園